



2014年度日本デザイン学会秋季企画大会報告

東京造形大学 玉田俊郎

去る2014年10月25日、日本デザイン学会秋季企画大会が東京造形大学を会場に開催されました。企画テーマは「グローバル連携とデザイン教育」です。一般的にグローバルという言葉は広く認知されていますが、国内教育分野では馴染みのある言葉ではありません。

一方、ヨーロッパ、とくにEU圏ではグローバルという言葉の使用の有無はともかく実質的な教育のグローバル化が進んでいます。EU域内での大学の交換留学はセメスター毎に自国以外の大学で学ぶことはほぼ義務化されています。

これはエラスムス計画(The European Community Action Scheme for the Mobility of University Students: ERASMUS)は、大学間交流協定等による共同教育プログラム(ICPs: Inter-University Co-operation Programmes)で各種の人材養成計画、科学・技術分野におけるEU加盟国間の人物交流協力計画を指します。

エラスムス計画の提案は、1985年12月、当時のEC委員会より閣僚理事会に提出された計画書に始まり、1987年6月15日正式決定され、パイロット・プログラムが開始されました。

アート・デザイン分野の教育ではエラスムス計画を起点としてCumulus(国際的美術・デザイン・メディア連合が1990年結成され、ヨーロッパからアジア、アメリカと広がりを見せ、2014年で48カ国、211の教育機関が加盟しています。

背景には美術・デザイン分野の世界的な広がりとともに、社会のさまざまな分野への積極的なコミットや国際的な連携を通して、DESISに見られるような国際課題を共同して取り組む機運が高まっていることがあります。

日本デザイン学会企画大会では上記の観点から、基調講演者としてCumulus理事のUlrich Schendzieloz教授を招き、Cumulusの活動や展開、将来展望を語って頂きました。また、Cumulusが国際連携で取組んでいるDESISの考え方、活動について東京造形大学、益田文和教授が基調報告を行いました。

基調講演、基調報告の後、圓山 憲子先生[武蔵野美術大学、国際センター長]樋口 孝之先生[千葉大学]益田 文和先生[東京造形大学]モデレータ 玉田 俊郎[東京造形大学]でパネルディスカッションを

行いました。この中で、それぞれの大学に取組んでいる事例紹介とディスカッションが行われました。日本における美術・デザインのグローバル連携は制度やカリキュラム、アドミニストレーションの機能強化、学生の資質向上、など多くの課題があるがグローバル教育の推進と連携は今後ますます必要となってくることは確実であり、更なる情報交換と各大学での取組みが求められるとの共通認識を持ちました。

また、学生プロポジション展覧会[全国のデザイン学生作品]を東京造形大学、ZOKEIギャラリーで行い、活発な発表と質疑応答がなされました。その他、ZOKEI教育展—ZOKEI DESIGN 社会への照準—(東京造形大学附属美術館)を開催しました。

●大会プログラム

9:30-10:00 開会挨拶、学会賞授与など

10:00-11:00 基調講演 | Ulrich Schendzieloz [シュビービッシュ・ゲミュント造形大学教授]

「グローバル連携とデザイン教育—Cumulusの活動と展開—」

※ Cumulus: 国際的美術・デザイン・メディア大学連合

11:00-12:00 基調報告 | 益田 文和 [東京造形大学教授]

「DESISの活動と展開—ソーシャルデザイン+サステナブルデザイン—」

※ DESIS [デスイズ] とは、デザインに関する教育プログラム、デザインラボ間のネットワーク。DESISはUNEP [国連環境計画]の支援を受けた活動。

昼食〈学食〉

12:00-14:30

学生プロポジション展覧会[全国のデザイン学生作品]〈ZOKEIギャラリー〉

ZOKEI教育展—ZOKEI DESIGN 社会への照準—(東京造形大学附属美術館)

14:50-16:50 パネルディスカッション

テーマ | グローバル連携とデザイン教育—その取組みと展開—

パネラー | Matthias Held [シュビービッシュ・ゲミュント造形大学]

圓山 憲子 [武蔵野美術大学、国際センター長]

樋口 孝之 [千葉大学]

益田 文和 [東京造形大学]

モデレータ | 玉田 俊郎 [東京造形大学]

16:50-17:00 閉会挨拶

17:15-18:45 交流会〈CSプラザ〉

※ なお、本文エラスムス計画と表記につきまして

文科HP: www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/を参考としました。

写真左上: 学生プロポジション展覧会会場

秋季企画大会・学生プロポジション審査報告

東京造形大学において、2014年10月25日に学生プロポジション（学生ポスターセッション）が行われました。40の展示作品・研究が集まり、活発な議論が交わされ、盛況のうち終わることができました。関係者の方、ご協力ありがとうございました。

終了後には、参加者全員のプレゼンテーションを聞いた上で、審査員の厳正な審査を行い、以下の7名の方を表彰することになりました。おめでとうございます。

優秀賞（2名）

氏名：横山 紗李（よこやま さり）

所属：愛知産業大学通信教育部デザイン学科

出展作品・研究題目：日韓学生作品交流 ActionK - REGGE Posters-

氏名：本多 達也（ほんだ たつや）

所属：公立はこだて未来大学大学院

出展作品・研究題目：音触感のユーザインタフェースデザイン研究

リフレクティブ賞（2名）

氏名：二ノ宮 傑（にのみや すぐる）

所属：東京造形大学大学院

出展作品・研究題目：高度先端医療による UX に基づいた Ambient デザインの研究

氏名：宮本 諒（みやもと りょう）

所属：早稲田大学基幹理工学研究科表現工学専攻

出展作品・研究題目：遊具を介した情報認知と共有に関する研究

クリエイティブ賞（2作品・6名）

氏名：堀江 大（ほりえ まさる）

所属：千葉工業大学大学院工学研究科デザイン科学専攻

出展作品・研究題目：新しいツーリング用サイクルの提案

氏名：別所 直哉（べっしょ なおや）

黄 慶浩（こう よしひろ）

合原 拓也（ごうはら たくや）

村田 侑紀奈（むらた ゆきな）

林 暁宣（LIN SHEAU SHIUAN）

所属：京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科デザイン経営工学専攻

出展作品・研究題目：綺麗さびの美学を追求したジャパンプランドの創出 - 茶室弁当セットの提案 -

チャレンジ賞（1名）

氏名：石川 和也（いしかわ かずや）

所属：千葉工業大学大学院工学研究科デザイン科学専攻

出展作品・研究題目：ドラッグストアでの医薬品購入時における問題改善に関する研究

（以上、敬称略）



学生プロポジション風景

平成26年度第1回理事会議事録

日時■平成26年4月26日(土曜日)

15:00～17:30

場所■芝浦工業大学 芝浦校舎(田町)

3階 305室

出席者■山中、松岡、青木(史)、五十嵐、池田(岳)、
池田(美)、井上、岡崎、岡田、岡本、
清水、國澤、國本、久保、小林、杉山、
高野、田村、寺内、萩原、蓮見、平松、
古屋、村上、渡邊、小野

委任状出席■生田目、両角、山本

欠席■小山、清水、細谷、橋田

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 平成25年度第八回理事会議事録の承認(小野本部事務局長)

平成25年度第八回理事会の議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成26年度学会活動方針(山中会長)

山中会長より、平成26年度の活動方針が示された。基本方針を“デザイン学によるデザインの実現に向けて”とし、具体的に10の基本施策について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。杉山監査より、国際的に他領域との融合が強化されている中、デザイン学会が他分野、他学会とどのように連携するべきかについて検討していく必要があるのではとの意見がなされ、検討することとした。また法人化については、法人化を前提として推進していくのか、法人化すべきかどうかから議論していくのか明確に示す必要があるとの指摘がなされた。

4. 平成26年度学会組織について(山中会長)

山中会長より、平成26年度学会組織案が示された。組織的な変更としては、時限付きの特別委員会として、法人化対策特別委員会を新たに設置することが提案された。審議の後、承認がなされた。

5. 平成26年度学会運営スケジュールについて

(小野本部事務局長)

小野本部事務局長より、学会運営スケジュール案が示され、審議

の後、承認がなされた。

6. 名誉会員推挙について(山中会長)

山中会長より、10名の候補者が紹介され、審議の後、3人の候補者について、確認をとり、次回理事会で決定することとした。

7. 平成26年度春季研究発表大会について(池田大会実行委員長)

池田大会実行委員長より、現時点での予定発表件数(口頭178件、ポスター123件、合計301件)、現在の準備状況について説明がなされた。具体的には、後援組織、企業展示、エクスカージョンについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

杉山監査より、プログラムにおいて、福井らしさ、福井工業大学らしさをさらに前面に出して頂きたいとの意見がなされ、実行委員会で検討することとした。

8. オーガナイズドセッションについて(松岡副会長)

松岡総合企画委員長より、学会員でないオーガナイズドセッションのパネリストの懇親会参加費について問い合わせがきているとの報告がなされ、審議の後、学会員でないパネリストの方からは懇親会費は徴収しないこととした。

9. 第61回総会式次第について(小野本部事務局長)

小野本部事務局長より、第61回総会式次第案が示され、審議の後、承認がなされた。

10. 平成26年度秋季企画大会及び27年度春季研究発表大会について(山中会長)

山中会長より、平成26年度秋季企画大会は、東京造形大学にて10月25日、テーマ「デザイン教育の国際化」で開催すること、平成27年度春季研究発表大会については、現在、千葉大学が候補としてあがっており、可能性について打診することとした。

11. 費用負担が発生する協賛・後援依頼の扱いについて

(山中会長)

山中会長より、協賛・後援依頼の取扱いについて説明がなされた。今まで費用負担が発生しない協賛・後援依頼の場合は、理事会での審議は行わず、会長、事務局で精査し判断していたが、現在DSP(デザインサポートプロジェクト)から費用負担が発生する協賛依頼が届いており、今後このような費用が発生する協賛・後援依頼について、どのように扱うべきか審議する必要があるとの説明がなされ、審議の後、改めて次回の理事会で審議することとした。

12. 会員の移動について(本部事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

[入会:正会員 30 名, 学生会員 76 名 (内外国人 12 名), 年間購読 1 件,
退会:正会員 16 名, 学生会員 6 名 (内外国人 1 名)] が承認された。

【報告事項】

1 3. 第三支部活動報告 (國本第三支部長)

國本第三支部長より, 日本デザイン学会奨励賞第 3 支部について報告がなされた。

1 4. DESIGN シンポジウム (村上理事)

村上理事より, 日本設計工学会, 日本機械学会, 精密工学会, 日本建築学会, 日本デザイン学会, 人工知能学会の 6 学会共催で隔年開催している, DESIGN シンポジウム 2014 (期間: 2014 年 11 月 11 日 (火) ~ 13 日 (木), 場所: 東京大学 生産技術研究所) について告知がなされた。一般講演の応募の締め切りが 6 月 6 日で, ぜひ多くの方に応募して頂きたいとの要望がなされた。

1 5. 2020 年東京オリンピックにおける取組について (青木理事)

現在, デザイン振興会に, 様々な機関から連携の申し出が届いており, 社会的にデザインが必要であるということ, 質の高いデザインが適切に選ばれる仕組みづくりをポイントとして, デザイン学会も含め, 一緒に議論・推進していきたいとの意向が示された。

(記録: 小野)

平成 26 年度第 2 回理事会議事録

日時 ■ 平成 26 年 5 月 24 日 (土曜日)

15:00 ~ 17:00

場所 ■ 芝浦工業大学 芝浦校舎 (田町)

3 階 305 室

出席者 ■ 山中、松岡、五十嵐、岡本、久保、田村、

生田目、平松、古屋、小野、八馬、

委任状出席 ■ 池田 (岳)、渡邊、

欠席 ■ 岡崎、國澤、小林、

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 平成 26 年度第 1 回理事会議事録の承認

(八馬本部副事務局長)

平成 25 年度第 8 回理事会の議事録案が示され, 原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成 25 年度決算・監査報告 (小野本部事務局長)

小野本部事務局より, 平成 25 年度決算について説明がなされた。古屋理事より, 委員会経費など, 予算が消化できていない項目があり, これらが予定通り支出されると全体的に赤字になるとの指摘がなされた。審議の後, 平成 26 年度の予算は, 支出, 収入とも現実に即して計上していくことと, また収入に関して, 会費や別刷り料の未徴収があり, お知らせする回数を増やし, 徴収率をあげていくこととした。

監査報告について, 小野本部事務局長より, 会員数の漸減, 学生会員会費の未徴収, 出版物発行の遅れ, 事務職員の給料の増額の四つの点が監査より指摘があったとの報告がなされた。

4. 平成 26 年度予算案について (小野本部事務局長)

小野本部事務局長より, 平成 26 年度予算案が説明された。正会員数, 学生会員数を明記する必要があるとの指摘がなされ, 会員数の表記方法について, 事務局で検討する事とした。JABEE 会費については, 退会することも含め, 引き続き検討することとした。

5. 活動方針について (山中会長)

山中会長より, 前回提示された活動方針に対し, 文言や順番を変更したものが提示された。古屋理事より, もし来年度から出版物の電子化を進めるのであれば, 本年度の総会で審議する必要があるとの指摘がなされた。山中会長より, スケジュール的に本年度の総会に諮るのは難しいため, 本年度の総会では, 出版物の電子化について, またそれに伴う財務構造の変化について説明を行い, 平成 27 年度の総会に諮り, 平成 28 年度から実施していくとの説明がなされた。

6. 平成 26 年度春季研究発表大会について

(池田大会実行委員長 (代) 山中会長)

池田大会実行委員長の代理として, 山中会長より, 現在の準備状況について説明がなされ, 審議の後, 承認がなされた。

7. 平成 26 年度学会各賞選考委員会発足と日程について

(松岡担当理事)

松岡担当理事より, 平成 26 年度学会各賞選考委員会について, 以下の体制で進める予定であるとの説明がなされ, 審議の後, 承認がなされた。

委員長: 青木弘行

委員: 清水泰博, 庄子晃子, 杉山和雄, 原田昭, 松岡由幸,

宮崎清, 宮内哲, 森典彦

また, 締切は, 昨年度より一週間早め, 7 月 21 日 (月) とすることとした。

8. 作品審査委員会（小林作品審査委員長（代）生田目委員）

小林作品審査委員長の代理として生田目委員より、活動計画、作品募集の文面、について説明がなされ、審議の後、了承された。

9. 協賛・後援の取り扱いについて（山中会長）

山中会長より、現在、協賛・後援の取り扱いについては、明確な指針はないが、費用負担が発生しない協賛・後援については審議の後、決定するが、費用が発生する協賛・後援協賛については、基本、行わない方向で取り扱いたいとの意見がなされ、審議の後、承認がなされた。

10. 終身正会員について（小野本部事務局長）

小野本部事務局長より、会則には終身正会員（終身正会員の資格は、正会員として本会に満50年以上所屬し、その間本会の発展に功勞のあった者とする。）の会員区分があるが、実質機能していないため、選考、運用について検討して欲しいとの意見がなされ、審議の後、引き続き検討することとした。

11. 平成27年度春季研究発表大会開催地について（山中会長）

平成27年度春季研究発表大会の開催地を千葉大学とすることで承認がなされた。

12. 会員の移動について（八馬本部副事務局長）

事務局に提出された書類を閲覧・審議した結果、
入会：正会員8名（内外国人3名）、学生会員25名（内外国人7名）
年間購読：1件、
休会：1件
退会：正会員3名、学生会員6名
が承認された。

【報告事項】

13. 平成26年度春季大会学生交流ワークショップについて
（渡邊研究推進委員長（代）平松委員）

渡邊研究推進委員長の代理として平松委員より、学生交流ワークショップについて説明がなされた。またファシリテーターの確保がまだ十分にできていないため、個別に推薦頂きたいとの説明がなされた。

14. 総会資料確認のお願い（小野本部事務局長）

小野本部事務局長より、総会資料の確認について依頼がなされた。
（記録：小野）

平成26年度第3回理事会議事録

日時■平成26年7月4日（金曜日）

12:00～12:45

場所■A O S S A 8階 リハーサル室

出席者■山中、松岡、渡邊、五十嵐、池田（岳）、池田（美）、井上、岡崎、岡本、工藤、國本、小山、杉山、高野、田村、萩原、蓮見、平松、益岡、両角、山本、山内、玉田、小野、佐藤、八馬

委任状出席■青木（史）、岡田、清水、國澤、久保、小林、寺内、村上、山田

欠席■生田目、橋田、古屋、細谷

名誉会員■上原、黒川、清水（忠）、中嶋、野口、山岸

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 名誉会員挨拶

ご参加頂いた5名の名誉会員（上原名誉会員、清水名誉会員、黒川名誉会員、野口名誉会員、山岸名誉会員）より挨拶がなされた。

3. 平成26年度第2回理事会議事録の承認（八馬本部副事務局長）

八馬本部副事務局長より、第2回理事会議事録案が示され、承認がなされた。

【審議事項】

4. 平成26年度秋季企画大会について（玉田実行委員長）

玉田実行委員長より、10月25日東京造形大学で開催される秋季企画大会について説明がなされた。具体的には、大会テーマ「仮）ソーシャルイノベーションとデザイン教育」、特別講演、学生プロポジション、パネルディスカッションについて計画案が示され、承認がなされた。

また26日に行われる東京造形大学50周年記念シンポジウムについて説明がなされた。

5. 平成27年度春季研究発表大会について

（佐藤（公）実行委員長 代理 渡邊副会長）

佐藤公信実行委員長の代理として渡邊副会長より、平成27年度春季研究発表大会を期間：6月12～14日、場所：千葉大学西千葉キャンパスにて開催したいとの計画案が示され、審議の後、承認がなされた。

6. 編集・出版ロードマップについて（岡崎編集・出版委員長）

岡崎編集・出版委員長より、学会出版物のデジタル化に関するロードマップについて説明がなされた。山中会長より、出版物の電子化は学会の財務構造に大きな影響を与えるため、また総会での審議も必要であるため、平成27年度よりすべて電子化に移行するのは難しいが、準備については引き続き進めていく必要があるとの意見がなされ、審議の後、承認がなされた。

また岡崎編集・出版委員長より、現在の特集号の出版状況について報告がなされた。

7. 会員の移動について（八馬本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、
入会：正会員13名（内外国人2名）、学生会員10名（内外国人1名）
退会：正会員4名、学生会員4名
が承認された。

【報告事項】

8. 財務計画案について

（生田目財務委員長 代理 小野本部事務局長）

生田目財務委員長の代理として小野本部事務局長より、学会出版物を電子化した場合の予算シミュレーションについて説明がなされた。具体的には電子化に移行した場合、出版費を約1,000万円削減でき、会費を正会員10,000円、学生会員5,000円に設定できるとの説明がなされ、今後も引き続き検討を進めていきたいとの報告がなされた。

9. 平成26年度春季研究発表大会について

（山内大会長、池田大会実行委員長）

山内大会長、池田大会実行委員長より、大会の運営状況、今後のスケジュールについて報告がなされた。

（記録：小野）

平成26年度第4回理事会議事録

日時■平成26年9月20日（土曜日）

11:00～13:00

場所■筑波大学 東京キャンパス文教校舎（茗荷谷）

4階 431会議室

出席者■山中、松岡、五十嵐、岡崎、久保、小林、古屋、渡邊、
小野、佐藤、八馬

委任状出席■岡本、國澤

欠席■生田目

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 平成26年度第3回理事会議事録の承認（八馬本部副事務局長）

八馬本部副事務局長より、第3回理事会議事録案が示され、承認がなされた。

【審議事項】

3. 平成26年度秋季大会について

（玉田実行委員長 代理 山中会長）

玉田実行委員長の代理で山中会長より、スケジュール、基調講演、パネルディスカッションについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。パネリストについて、武蔵野美術大学に打診することとした。

4. 平成26年度学会各賞選考委員会報告（松岡担当理事）

松岡担当理事より、平成26年度学会各賞選考結果について、功労賞2件、年間論文賞1件、特別賞1件が選ばれたとの報告がなされ、承認がなされた。

5. 学生プロポジション募集と実施について（渡邊研究推進委員長）

渡邊研究推進委員長より、秋季企画大会の中で開催される学生プロポジションの応募内容、および準備状況について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

また渡邊研究推進委員長より、学生プロポジションに参加した学生を、上手く論文投稿や作品集投稿に参加して貰えるようにする必要があるとの指摘がなされた。

6. デザイン学研究への重複投稿について（久保論文審査委員長）

久保論文審査委員長より、International Journal of Designの編集

委員会より重複投稿について2件の問合せがあったとの報告がなされた。

1件はデザイン学会へ先に投稿されているため、判断は先方に任せることとし、もう1件については、デザイン学会への投稿が後であるため、論文審査委員会で慎重に精査することとした。

7. デザイン学研究掲載論文の他紙転載について

(久保論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、配布資料に基づき、他紙転載の依頼について説明された。今回対象となる論文は1998年以前の論文で、学会が著作権を有さない時期の論文であるため、出版社から依頼のあった書面へのサインは論文審査委員長が行い、著者本人への許諾確認は会長が行うことで承認がなされた。

8. 支部運営金について(五十嵐支部企画委員長)

五十嵐支部企画委員長より、第1支部から提出された予算計画について報告がなされた。2年間の総額は変わらない(年間15万)ことから、配分については各支部の判断に任せることで承認がなされた。

9. オーガナイズドセッションのテーマ選考について(山中会長)

山中会長より、来年度の春季研究発表大会のオーガナイズドセッションについて、会員への公募の前に、理事会で学会として取り組むべきテーマについて議論が必要であるとの意見がなされた。取り組むべきテーマ案としては、「震災のその後」、「学会誌の国際化問題」の2点について提案がなされた。

10. 会員の移動について(八馬本部副事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会:正会員10名(内外国人1名)、学生会員4名(内外国人1名)、
賛助会員2件

退会:正会員4名、学生会員6名

が承認された。ただ賛助会員1件については、賛助会員は研究発表大会で発表できないことを把握されていない可能性があるため、会員条件をお伝えし、改めて意思を確認することとした。

【報告事項】

11. 論文審査状況報告(久保論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、平成26年度9月2日現在の論文審査の状況について説明がなされた。対象期間は平成25・26年度の2年間で、投稿数140、採否決定数86(論文48、報告24、論説2、却下12)、審査中54であるとの報告がなされた。

12. 編集・出版のロードマップについて(岡崎編集・出版委員長)

岡崎編集・出版委員長より、配付資料に基づき、作品集の電子化に伴う表記方法について報告がなされた。電子化に伴う表記方法については、まずは日本語表記を20巻20号から20巻1号に改め、その上で20.01_02にすることとした。小野本部事務局長より、電子化されるタイミングで、作品集はデザイン学研究とは別のジャーナルとなるのか、一部となるのかについて、最終決定を確認する必要があるとの指摘がなされ、J-S t a g eへ確認することとした。また特集号の出版計画についても報告がなされた。

13. 作品審査委員会報告(小林作品審査委員会)

小林作品審査委員長より、作品審査状況について、46件の応募があり、今後は審査段階に移行するとの報告がなされた。また委員会の中で、J-stageに移行した後は、紙媒体は必要ないとの意見でまわっているとの報告がなされた。

14. J-S t a g e有料化に関するアンケートについて

(久保論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、J-S t a g eから有料化に関するアンケートが届いているとの報告があった。山中会長より、現時点では、代替となるシステムを見つけるのは困難であり、有料化後も使用するしかないであろうとの意見が述べられた。

15. D e s i g nシンポジウム開催について(松岡担当理事)

11月3、4、5日、東京大学生産技術研究所で開催されるデザインシンポジウムについて告知がなされた。

16. 横断型基幹科学技術研究団体連合シンポジウム開催について

(松岡担当理事)

松岡担当理事より、11月29、30日に開催される横断型基幹科学技術研究団体連合シンポジウムについて告知がなされた。

17. 藝術学関連学会連合シンポジウムテーマ募集について

(小林担当理事)

小林担当理事より、本年度のテーマ募集については、まだオーガナイザーをされていない学会から募集するという方向で決定されているため、本年度は会員からのテーマ募集は行わないとの説明がなされた。

(記録:小野)

平成26年度第5回理事会議事録

日時■平成26年10月25日（土曜日）

12:20～13:00

場所■東京造形大学 1号館 第一会議室

出席者■山中、松岡、青木（史）、池田（美）、岡崎、岡田、岡本、久保、小林、高野、寺内、生田目、萩原、蓮見、平松、益岡、村上、両角、山田、山本、玉田、佐藤（公）、小野

委任状出席■渡邊、池田（岳）、井上、清水、工藤、國澤、小山、田村、橋田、古屋、佐藤、八馬

欠席■生田目

欠席者■五十嵐、國本、杉山、細谷

名誉会員■加藤、高橋、野口

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 大会実行委員長挨拶

玉田大会実行委員長より挨拶がなされた。

3. 名誉会員挨拶

加藤名誉会員、高橋名誉会員、野口名誉会員より挨拶がなされた。
加藤名誉会員より、図記号の国際標準化について資料が配布され紹介がなされた。

4. 平成26年度第4回理事会議事録の承認（山中会長）

第4回理事会議事録案が示され、承認がなされた。

【審議事項】

5. 平成27年度春季研究発表大会について

（佐藤（公）大会実行委員長）

佐藤公信大会実行委員長より、日時、運営体制など準備状況について説明がなされた。

6. 平成27年度秋季企画大会について（山中会長）

山中会長より、平成27年度秋季企画大会の開催地について、現在検討中であり、候補案がある場合はご連絡頂きたいとの要望がなされた。

7. デザイン学研究投稿規定の見直し（久保論文審査委員長）

久保論文審査委員長より、現在、進められている投稿規定の見直し作業について説明がなされた。主な見直し箇所として、著作権に関する規定、論文審査システムの電子化に伴う記述の見直しなどが上げられた。

山中会長より、全てが電子化に移行した場合、別刷り料は機能しなくなるため、見直して頂きたいとの要望がなされ、委員会で検討を進めることとした。

8. 学会誌の今後について（岡崎編集・出版委員長）

岡崎編集・出版委員長より、学会誌の今後について資料に基づき説明がなされた。以下の3点について審議の後、承認がなされた。

- ・デザイン学研究、デザイン学研究作品集を平成28年度より完全電子化
- ・特集号は引き続き印刷媒体のみ出版
- ・特集号の発行回数を4回/年(モノクロ)から2回/年(カラー)に変更

山中会長より、これらの実行するためには、会則を変更する必要があるため、来年度の総会に間に合うよう準備を進めて頂きたいとの要望がなされた。

山田理事より、特集号の発行回数が少なくなると、会報を掲載するタイミングも少なくなるため、特集号の発行スケジュールを守って頂きたいとの意見がなされた。山中会長より、会報については、メールなどによる配信も検討して頂きたいとの要望がなされた。

寺内理事より、電子化にともない論文フォーマットを変更する必要があるのではとの意見がなされ、委員会で検討することとした。

また松岡理事より、学会出版物の英語の名称についても検討して頂きたいとの意見がなされ、委員会で検討することとした。

9. 日本デザイン学会Webサイトのリニューアルについて

（岡本広報委員長）

岡本広報委員長より、リニューアルの方針、スケジュール、予算、企画・開発メンバーについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

山中会長より、英語ページも構築して頂きたいとの意見がなされた。村上理事より、全てのページの英文化を行うのは作業的、予算的負担が大きいため、当面はGoogleなどの自動翻訳機能を併用し運営してはどうかとの意見がなされ、検討することとした。

10. 会員の移動について（小野本部事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員10名、学生会員3名

退会：正会員6名、学生会員7名

が承認された。

【報告事項】

11. 論文審査状況（久保論文審査委員長）

久保論文審査委員長より、平成26年度10月21日現在の論文審査の状況について説明がなされた。対象期間は平成25・26年度の2年間で、投稿数152件、採否決定96件（論文52、報告26、論説4、却下14）、審査中56件であるとの報告がなされた。

12. 第四支部で開催されるイベントの協賛・後援について

（益岡第四支部長）

益岡第四支部長より、第四支部で開催されるイベントについて報告がなされた。

人間工学会より、中国・四国支部、関西支部の合同支部大会（12月13日開催）に対して協賛依頼があり、承諾する予定であるとの報告がなされた。

情報デザイン研究部会の部会（11月21日開催）に対して、協賛依頼があり、承諾する予定であるとの報告がなされた。

また2月20日もしくは27日、大阪工業大学にて第四支部会を開催する予定であるとの報告がなされた。

13. Designシンポジウム2014（村上理事）

村上理事より、11月3～5日、東京大学生産技術研究所で開催されるDesignシンポジウム2014について告知がなされた。

14. 東京デザイン2020フォーラムについて（青木理事）

青木理事より、11月3日、東京大学工学部で開催される東京デザイン2020フォーラムVol. 5について告知がなされた。

15. 横断型基幹科学技術研究団体連合シンポジウムについて

（松岡理事）

松岡理事より、11月29、30日、東京大学で開催される横断型基幹科学技術研究団体連合シンポジウムについて告知がなされた。

（記録：小野）

平成26年度第6回理事会議事録

日時■平成26年12月20日（土曜日）

14:00～17:00

場所■A P秋葉原 5階会議室（D+E+F）

出席者■山中、松岡、池田（岳）、井上、岡本、工藤、國澤、國本、小林、高野、田村

生田目、蓮見、平松、古屋、益岡、両角、山田、山本、小野

委任状出席■渡邊、五十嵐、池田（美）、岡崎、岡田、清水、久保、小山、杉山、萩原、橋田、村上、佐藤、八馬、

欠席■五十嵐、青木（史）、寺内、細谷

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 平成26年度第5回理事会議事録の承認（小野本部事務局長）

第5回理事会議事録案が示され、承認がなされた。

【審議事項】

3. 懸案事項の確認（山中会長）

山中会長より、平成26、27年度の懸案事項について説明がなされた。重要な懸案事項として、法人化に向けた検討、広報活動の強化、会員制度の拡大と財務の改善の3点について詳しく説明がなされ、審議の後、承認された。

4. 論文集、作品集の電子化に伴う会費値下げの試算

（生田目財務委員長）

生田目財務委員長より、論文集、作品集の電子化を行い、会費を正会員10,000円（現行13,000円）、学生会員5,000円（現行6,500円）に下げた場合の収支シミュレーションを行った結果について説明がなされた。松岡理事から、移行期間時に予期しない出費が生じる可能性があるため、会費については、電子化が軌道に乗った後、下げの方が良いのではとの意見がなされた。國本理事より、個人負担でプリントサービスを提供することも検討して欲しいとの意見がなされた。小野本部事務局長より、電子化に伴い年間購読会員の大幅な減少が予想されるとの指摘がなされた。山田理事より、会員の年齢構成を考慮し、その変化を長期的に捉えながら検討する必要があるとの指摘がなされた。

蓮見理事より、電子化により経費が削減できたので、会費を3000円安くしますというのは、会員にとって大したメリットはなく、電

子化により削減できた分で、新しい魅力的なサービスを提供するような前向きな提案をすべきであるとの意見がなされた。松岡副会長より新興デザイン領域を取り込むような施策を考えるべきであるとの指摘がなされた。工藤理事より、特集号を広報媒体として位置づけ、書籍出版も視野に入れ、より魅力的なものにするという方向もあるとの意見がなされた。

これらの意見を踏まえ、電子化による削減分で行う、新しい魅力的なサービス提供について、改めて検討することとした。

また生田目財務委員長より、学生会員から正会員への移行率など、学生会員の現状について報告がなされた。

また山中会長より、オーガナイズドセッションについても、広報的な役割を強化するため、4本のうち2本は従来通り公募により、残り2本を学会主導で取りまとめていきたいとの意見が出され、審議の後、承認された。

5. 学会ホームページのリニューアルに関して（岡本広報委員長）

岡本広報委員長より、学会ホームページのリニューアル方針、トップページの画像、英語対応、予算などについて説明がなされ、承認がなされた。トップページ画像については、作品集の写真を利用する方向で検討しているとの説明がなされた。

山中会長より、デザイン教育機関のリンクページを用意して欲しいとの意見がなされた。両角理事より、プッシュ式で会員にアクセスできる手段も必要であるとの意見がなされた。井上理事より、支部で更新できるページを作って欲しいとの意見がなされた。

6. 演題登録システム (PASREG) 利用料について

（田村概要集編集委員長）

田村概要集編集委員長より、第62回春季研究発表大会のための演題登録システム利用料、および予稿集データ登録作業費に関する見積りが示され、審議の後、承認がなされた。

7. 選挙時期の変更について（山中会長）

山中会長より、現行の選挙時期（3月中旬）の場合、新体制のための準備期間がほとんどないため、選挙時期を12月、もしくは1月に変更した方がよいとの意見が出され、次回の理事会で再度審議することとした。

8. 会員の移動について（小野本部事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、
入会：正会員7名、学生会員1名（内外国人1名）
退会：正会員4名
が承認された。

【報告事項】

9. 特集号編集の進捗状況について

（岡崎編集・出版委員長（代）工藤委員）

岡崎編集・出版委員長の代理として工藤委員より、特集号編集の進捗状況について報告がなされた。また、現在、巻号どおりに発送できない問題が生じているとの報告がなされ、山中会長より、発送順に合わせて巻号を振るよう対応して欲しいとの要望がなされた。

10. 2014年度作品集審査の進捗状況他（小林作品審査委員長）

小林作品審査委員長より、2014年度作品審査の進捗状況について報告がなされた。具体的には1月末に入稿予定であるとの報告がなされた。

松岡理事より、審査を2回に増やせるかについて質問がなされ、小林委員長より、作業量的に難しい、また作品の場合、論文のように絶対的評価を行うのは難しく、相対的にならざるを得ない部分があるため難しいとの説明がなされた。ただ、審査はまとめて行い、原稿修正が終了した順に、2回に分けて発行することは可能であろうとの意見がなされた。

11. 芸術学関連学会連合2015年シンポジウム計画について

（小林芸術学関連学会連合担当）

小林芸術学関連学会連合担当より、2015年6月京都国立近代美術館で開催される芸術学関連学会連合2015年シンポジウム（テーマ「藝術と日常」）のパネリストの選出について、また芸術学関連学会連合の組織交代に対する学会の対応について、次回の理事会で審議する予定であるとの報告がなされた。

12. 第三支部研究発表大会について（國本第三支部長）

國本第三支部長より、3月7日名古屋市立大学病院で開催される第三支部研究発表大会について告知がなされた。

13. 作品集の写真のホームページでの利用について

（岡本広報委員長）

岡本広報委員長より、新ホームページ上で、作品集の写真の利用を予定しているため、来年度から作品集の応募書類にて、応募者から許諾を得るようにしたいとの報告がなされた。

14. 第五支部研究発表大会の概要集について（井上第五支部長）

井上第五支部長より、10月18日に開催された第五支部研究発表大会の概要集を本年度よりPDF化したとの報告がなされ、理事への配布もPDFで行うとの報告がなされた。

15. 第四支部研究発表大会について（益岡第四支部長）

益岡第四支部長より、4月8日に大阪工業大学のサテライトで開催される第四支部研究発表大会について告知がなされた。

(記録：小野)

平成26年度第7回理事会議事録

日時■平成27年2月7日(土曜日)

13:00～16:00

場所■拓殖大学 文京キャンパス(茗荷谷)

A館 第5会議室

出席者■山中、松岡、渡邊、岡崎、岡本、久保、小林、佐藤(公)、
生田目、小野、八馬

委任状出席■佐藤(弘)

欠席■五十嵐、國澤、古屋

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 平成26年度第6回理事会議事録の承認(小野本部事務局長)

第6回理事会議事録案が示され、承認がなされた。

【審議事項】

3. 平成27年度春季研究発表大会について

(佐藤(公)大会実行委員長)

佐藤公信大会実行委員長より、テーマ、会場、スケジュール、参加費などについて説明がなされ、承認がなされた。

4. オーガナイズドセッション企画について(松岡企画委員長)

松岡企画委員長より、応募のあった5件について説明がなされ、内容について審議がなされた結果、4件が選考された。

5. 春季大会テーマセッション募集結果とテーマ設定について

(渡邊研究推進委員長)

渡邊研究推進委員長より、応募のあった10件について説明がなされ、審議の結果、10件の承認がなされた。

6. 作品集電子化について(小林作品審査委員長)

小林作品審査委員長より、移行期間、審査手順、作品論文形式、刊行までの手順について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

7. オンラインジャーナル化に伴った「デザイン学研究」の書式変

更について(久保論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、資料に基づき、オンラインジャーナルに相応しい「デザイン学研究」のフォーマットのあり方について説明がなされ、審議の後、さらに検討を進めることとした。

また山中会長より、1段組みとすること、またフットノートを並記するなど、電子ジャーナルとしての読みやすさを考え、検討して頂きたいとの意見がなされた。

8. ホームページのリニューアルについて(岡本広報委員長)

岡本広報委員長より、学会ホームページのリニューアルについて、サンプルページを閲覧しながら説明がなされた。リニューアルのポイントは、デザイン学会の特徴の一つである作品集の作品を積極的にトップページで紹介する点であるとの説明がなされた。

久保論文審査委員長より、論文の図表も魅力的なものがあるので、同様にトップページに掲載して頂きたいとの意見がなされ、審議の後、承認がなされた。

またムービーについては、権利の問題があるので、今後検討することとした。

9. 重複投稿について(久保論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、台湾デザイン学会から問合せのあった重複投稿について説明がなされた。審議の結果、引用について示されていない点、また重複している部分が論文の核となる部分であり、その分量も多いため、掲載取消しとして対応することとした。

10. 藝術学関連学会連合シンポジウムについて(小林担当理事)

小林担当理事より、6月13日京都大学で開催される藝術学関連学会連合シンポジウムのパネリスト募集の案内について、審議の後、春季研究発表大会の開催時期と重なるが通常通り行うこととした。また会長の推薦については、審議の結果、日本デザイン学会からは推薦者なしで報告することとした。

11. 会員の移動について(八馬本部副事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、
入会：正会員6名、学生会員9名(内外国人3名)
退会：正会員14名、学生会員1名
が承認された。

12. 役員選挙時期について(山中会長)

山中会長より、選挙時期を12月に早める件については、法人化と関係する事項なので、國澤法人化対策委員長と相談し、次回理事会で審議したいとの説明がなされ、承認がなされた。

【報告事項】

1 3. 「デザイン学研究」投稿論文査読状況について

(久保論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、2月4日現在の論文査読状況について、以下の通り報告がなされた。

2014年度分、投稿数 96 本、採否決定 39 本（論文 20、報告 7、論説 4、却下 8）

2013年度分、投稿数 90 本、採否決定 76 本（論文 41、報告 23、論説 2、却下 10）

1 4. 電子化に伴う財務への影響について（財務生田目財務委員長）

生田目委員長より、学会出版物の電子化による財務への影響を試算したところ、400 万円弱支出が抑えられるとの報告がなされた。また学会の魅力を向上するための使途についてお考えいただきたいとの依頼がなされた。

(記録：小野)

平成26年度第8回理事会議事録

日時■平成27年3月16日（土曜日）

15:00～18:00

場所■芝浦工業大学 芝浦校舎（田町）

3階 305室

出席者■山中、松岡、五十嵐、岡崎、岡田、清水、工藤、國澤、

國本、小林、田村、生田目、萩原、蓮見、益岡、山本、

小野

委任状出席■渡邊、池田（岳）、池田（美）、井上、岡本、久保、

小山、高野、寺内、村上、両角、佐藤、八馬

欠席■青木（史）、杉山、橋田、平松、古屋、細谷、山田

1. 会長挨拶

山中会長より挨拶がなされた。

2. 平成26年度第7回理事会議事録の承認

第7回理事会議事録案が示され、承認がなされた。

【審議事項】

3. 第62回春季大会準備状況について（佐藤春季大会実行委員長（代）小野実行委員）

佐藤公信大会実行委員長の代理として小野実行委員より、現在の

発表登録状況、また基調講演を竹原あき子氏にタイトル「骨とトゲのあるデザインの話」でお願いすること、前回の理事会で説明した特別セッションが講演者のスケジュールの都合で変更せざる得なくなった点について説明がなされ、承認がなされた。

また学生セッションについて、渡邊研究推進委員長から、運営体制などもう一度見直す必要があるとの指摘について報告がなされ、次回理事会で、審議することとした。

4. ホームページのリニューアルについて

(岡本広報委員長（代）山本委員)

岡本広報委員長の代理として山本委員より、ホームページのリニューアルについて説明がなされた。主に、前回久保論文審査委員長の要望に従い、論文も作品と同様にトップページからアクセスできるようにした点、利用マニュアルを現在作成中である点について説明がなされた。

國本理事から、英文名（Japanese Society for the Science of Design）をもう少し大きく表示する必要がある点、サイトのタグ情報を見直す必要がある点について指摘がなされた。

山中会長より、英語ページの対応状況について確認して欲しいとの要望がなされた。

小林作品審査委員長より、作品集の出版は年1回なので、トップページ画像の更新頻度について検討する必要がある点、また英語サイトからのランディングページについても検討する必要がある点について指摘がなされた。

松岡副会長より、パンフレットのデジタルデータがHPに掲載されていると良いとの指摘がなされた。

5. 法人化に向けてのロードマップについて

(國澤法人化対策特別委員長)

國澤法人化対策特別委員長より、法人化について以下の点について説明がなされた。

- ・法人化のメリット、デメリット
- ・会員の権利と義務
- ・会計の見直し（年度内執行、財務諸表）
- ・選挙制度の見直し

特に定款を作成するにあたり、理事の選任方法について、代議員制、直接制どちらを採用するのか早急に決定する必要があるとの指摘がなされた。

國本理事から、学会のあるべき姿として、公益社団まで目指すべきかどうか慎重に議論する必要があるとの指摘がなされた。また会員に対して十分に説明した上で、総会で諮るべきであるとの指摘がなされた。また企業からの支援の受け易さという視点からの検討も必要であるとの指摘がなされた。

小野本部事務局より、出版物の電子化についても、会員に対して

十分に説明が必要であるとの指摘がなされた。

工藤理事より、出版物の電子化のメリットとして、前回の理事会で議論された特集号の充実という方向性もあるとの指摘がなされた。

蓮見理事より、デザインの社会的ステータスを上げていくためには法人化は必要ではあるが、出版物の電子化も含めて、会員に対して明確なビジョン、そのビジョンを実現するための方策について示す必要があるとの指摘がなされた。

次回の理事会で、定款案、法人化及び電子化に関する会員への説明計画について審議することとした。

5. 財務委員会報告（生田目財務委員長）

生田目財務委員長より、出版物を電子化し、特集号（二冊）の充実を図った場合の試算が示され説明がなされた。

山中会長より、出版物の電子化に伴い年間購読会員が減ることが予想されるが、年間購読会員のためにオンディマンド印刷サービス導入を検討する必要があるとの指摘がなされ、学会誌出版・編集委員会で検討することとした。

蓮見理事より、J A B E E、C P D協議会の会費について見直す必要があるとの指摘がなされ、入会当時の経緯を確認し、改めて見直すこととした。

6. 学会誌編集・出版委員会（工藤学会誌編集・出版委員長）

工藤学会誌編集・出版委員長より、作品集の電子媒体のパスワード設定方法について説明がなされ、審議がなされた。完全電子化した場合は改めて審議が必要であるが、暫定処置として論文誌と同様にパスワード設定を行うこととした。

國本理事より、パスワード設定を行わなかった場合、特許法 30 条の適用について確認する必要があるとの指摘がなされ、学会誌編集・出版委員で確認することとした。

工藤学会誌編集・出版委員長より、また出版物の電子化に関する会員へ告知について、電子化がスタートすること、パスワードの設定、ロードマップを説明したチラシを学会誌に同封する形で進めていきたいとの要望がなされ、内容について次回理事会で確認したのち、進めることとした。

7. 会員の移動について（小野本部事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、
入会：正会員 4 名、学生会員 6 名（内外国人 4 名）
退会：正会員 15 名、学生会員 2 名
が承認された。

【報告事項】

8. 平成 27 年度秋季企画大会について（松岡企画委員長）

松岡企画委員長より、平成 27 年度秋季企画大会の開催機関について、環境デザイン部会に打診し、前向きに検討して頂いている状況であるとの説明がなされた。

開催時期、開催校が未定であるため、引き続き検討を進めて頂くこととした。

9. 平成 26 年度春季研究発表大会 会計報告

（池田大会実行委員長（代小野本部事務局長））

池田大会実行委員長の代理として小野本部事務局長から、平成 26 年度春季研究発表大会の会計について報告がなされた。

10. 平成 26 年度秋季企画大会 会計報告

（玉田大会実行委員長（代小野本部事務局長））

玉田大会実行委員長の代理として小野本部事務局長から、平成 26 年度秋季企画大会の会計について報告がなされた。

11. 第三支部発表大会について（國本第三支部長）

國本第三支部長より、第三支部研究発表大会を 3 月 21 日名古屋市立大学病院医療デザイン研究センターにて開催するとの報告がなされた。

（記録：小野）

平成27年度日本デザイン学会秋季企画大会会告

平成27年度秋季企画大会を、下記要領にて開催することとなりましたので、御案内申し上げます。

多数の会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

日程：2015年11月21日（土）

会場：東京藝術大学・上野校地

大会実行委員長：清水泰博（東京藝術大学）

テーマ：「デザイン・レガシーの時代」

学生プロポジション：テーマは特に設けず、ポスターセッションによる学生自身の研究の発表機会としますので、多数のご参加をお待ち申し上げます。

※詳細につきましては、準備が出来次第、日本デザイン学会ホームページ等にてお知らせいたします。

学会ウェブサイト・リニューアルのお知らせ

日本デザイン学会広報委員会

広報委員長 岡本誠

広報委員 内山俊朗・山本早里・大島直樹

広報委員会は、学会ウェブサイトをリニューアルするため検討を重ねてまいりましたが、6月1日、新しいウェブサイトをオープンすることができました。

新しいウェブサイトは、デザイン学研究の特色のアピール、表現力や親しみやすさの向上等を目指してコンテンツの構成や見せ方等を工夫しました。トップページは、論文集の目次や作品集の作品写真を提示できるよう大きく変更しました。新しいウェブサイトが、研究交流の場として充実するように、会員のみなさまに活用していただけると幸いです。

ウェブサイト内の各コンテンツは、委員会、支部会、研究部会で自由に編集して頂けるようにしております。ご活用くださいますようお願いいたします。

リニューアル作業にご協力いただいた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

日本デザイン学会 URL：<http://jssd.jp/>

J-STAGEでの作品集PDFの閲覧方法について

日本デザイン学会論文審査委員会

日本デザイン学会発行の作品集の電子版が、J-STAGEより公開開始となりました。

一定期間は閲覧を制限しておりますが、会員の皆様に限り認証制限期間でも閲覧できる購読者番号とパスワードをお知らせします。

なお、これらは論文集の電子版を閲覧する場合と共通のものです。

購読者番号：jssd2012

パスワード：dssj2012

日本デザイン学会「デザイン学研究 作品集」URL：

【日本語】<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrijssd/-char/ja/>

【英語】<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrijssd>

献本御礼

◆寄贈図書

戦後日本の木製家具，新井竜治，2014年11月26日，家具新聞社
東日本大震災復興研究Ⅳ／新しいフェーズを迎える東北復興への提言，「創造的復興」は果たせるか，4年目のレビュー，東北大学大学院経済学研究科，地域産業復興調査研究プロジェクト編，2015年3月10日，株式会社南北社

デザイン人間工学の基本，山岡俊樹編・岡田明・田中兼一・森亮太・吉武良治共著，2015年4月1日，武蔵野美術大学出版局，凸版印刷株式会社

◆機関誌

多摩美術大学研究紀要 第29号 2014，研究紀要委員会編，2015年3月31日，多摩美術大学，株式会社精興社

JAGDA REPORT Vol.190，〇〇化するデザイン，公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会編，2015年7月21日，株式会社誠文堂新光社

◆報告書

平成26年度北海道立工業技術センター業務報告書，2015年5月発行，公益財団法人函館地域産業振興財団，工業技術センター総務課企画部編，株式会社長門出版社

AIC2015 TOKYO Color and Image, Midterm Meeting of the International Colour Association(AIC), 19-22 May,2015, 日本色彩学会，AIC，MCS2015，BYK，KONICA MINOLTA

公共の色彩を考える会 シンポジウム（フォーラム）・公共の色彩賞，公共の色彩を考える会編，2015年4月18日，藤印刷

募集案内

KOKUYO DESIGN AWARD 2015

コクヨデザインアワードは、使う人の視点で優れた商品デザインを広くユーザーから集めて、商品化を目指すコンペティションです。昨年の応募数は1442件。参加国は日本を含めて29カ国におよび、プロダクトデザインの国際コンペティションとしても成長しております。また過去の受賞作品からは「カドケシ」や「Campus ノート パラクルノ」、「Beetle Tip (ビートルティップ)」などのヒット商品も誕生しました。これからも皆様のアイデアを一つでも多くカタチにしていきたいと思っております。どうぞ「コクヨデザインアワード 2015」に奮ってご応募ください。(案内パンフレットより)

- ・2015年度テーマ：美しい暮らし
- ・募集対象：文房具、家具
- ・賞と賞金：グランプリ（全1点）賞金200万円、優秀賞（全3点）賞金50万円
- ・審査方法：
 - 1次審査：「プレゼンテーションシート」による書類審査
 - 最終審査（2次審査）：「プレゼンテーションシート」＋「模型」によるプレゼンテーション審査
- ・審査基準：
 1. 造形的に美しいもの
 2. 機能を有したもの
 3. 新規性・革新性があるもの
 4. テーマと適合しているもの
 5. 暮らしの観察がされているもの
 6. 商品化の可能性があるもの



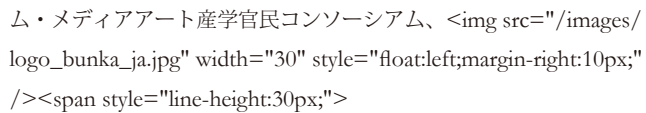
- ・開催スケジュール：
 - エントリー 2015年5月15日～7月31日
 - 作品提出 2015年5月15日～7月31日
 - 1次審査 2015年8月下旬予定
 - 1次審査通過連絡 2015年10月上旬予定
 - 最終審査（2次審査）・表彰式 2015年11月30日予定
 - 結果発表 2015年12月1日（予定）
- ・審査員：佐藤可士和、鈴木康広、田川欣哉、植原亮輔、渡邊良重、黒田章裕
- ・主催：コクヨ株式会社 後援：デザイン誌『AXIS』
- ・詳細：<http://www.kokuyo.co.jp/award/>

Tokyo Midtown Award 2015 デザインコンペ

- ・募集内容：「おもてなし」をテーマに、日本ならではの技術や伝統を生かした、日本の心づかいが感じられるような作品を募集。
- ・募集分野：ジャンルは問わないが、未発表作品案に限る。
- ・応募方法：応募用紙と募集シートに記入のうえ事務局まで郵送
＊必要用紙は公式HPよりダウンロードのこと
- ・応募資格：
 - ・個人またはグループ（何作品でも応募可）
 - ・国籍は問わないが、展示準備期間（2015年8月中旬～10月中旬予定）に日本国内に在住、または滞在していること
 - ・応募書類の提出時点で39歳以下であること
- ・応募期間：6月26日（金）～7月27日（月）
- ・賞：グランプリ（1点）は賞金100万円とトロフィー、準グランプリ（1点）は賞金50万円とトロフィーほか
グランプリ受賞者は、「ミラノサローネ」開催中に、イタリア・ミラノへ招待（グループの場合は2人まで）
- ・問い合わせ：Tokyo Midtown Award 2015 デザインコンペ事務局
メール：midtown-award2015@japandesign.ne.jp（件名に「デザインコンペ」と記載すること）
- ・詳細：<http://www.tokyo-midtown.com/jp>

催し物

ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム展 Manga * Anime * Games from Japan

- ◆会期：2015年6月24日(水)～8月31日(月)
- ◆会場：国立新美術館 企画展示室 1E
東京都港区六本木 7-22-2
- ◆開館時間：10:00～18:00 金曜日は20:00まで
入場は閉館の30分前まで
- ◆休館日：毎週火曜日休館
- ◆入場料：当日・1,000円(一般) 500円(大学生)
前売／団体・800円(一般) 300円(大学生)
- ◆主催：国立新美術館
- ◆企画：メディア・アート国際化推進委員会(国立新美術館、兵庫県立美術館、CG-ARTS協会)
- ◆後援：一般社団法人日本動画協会、マンガ・アニメーション・ゲーム・メディアアート産学官民コンソーシアム、width="30" style="float:left;margin-right:10px;"/>
※本展覧会の計画は文化庁「平成26年地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の補助金により実施されました。

「動きのカガク展」

- ◆会期：2015年6月19日(金)～9月27日(日)
- ◆会場：21_21 DESIGN SIGHT(六本木)
東京都港区赤坂 9-7-6
- ◆開館時間：10:00～19:00(入館は閉館の30分前まで)
- ◆休館日：火曜日(9月22日は開館)
- ◆入場料：一般1,100円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料、15名以上は各料金から200円割引、障害者手帳をお持ちの方と、その付き添いの方1名は無料、その他各種割引についてはご利用案内をご覧ください。
- ◆主催：21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人三宅一生デザイン文化財団
- ◆後援：文化庁、経済産業省、港区教育委員会、スイス大使館、ドイツ連邦共和国大使館
- ◆参加作家：
アトリエオモヤ、生永麻衣＋安住仁史、菅野 創＋やんツー、岸 遼、クワクボリョウタ、小井 仁(博報堂アイ・スタジオ／HACKist)、佐藤雅彦＋ユーフラテス、ジモウン、鈴木太朗、ナリタツヤ、パンタグラフ、ニルズ・フェルカー、藤元翔平、沼

倉真理、ユークリッド(佐藤雅彦＋桐山孝司)

- ◆参加団体：NTTコミュニケーション科学基礎研究所、東北工業大学、メルセデス・ベンツ日本株式会社
- ◆お問合せ：03-3475-2121

オスカー・ニーマイヤー展

- ◆会期：2015年07月18日(土)～2015年10月12日(月)
- ◆会場：東京都現代美術館 企画展示室地下2F
東京都江東区三好 4-1-1
- ◆開館時間：10:00～18:00(7～9月の金曜日は21:00まで)
入場は閉館30分前まで)
- ◆休館日：月曜日(7/20、9/21、10/12は開館)、7/21、9/24
- ◆入場料：一般1,100円 / 大学生・専門学校生・65歳以上800円 / 中高生600円 / 小学生以下無料
- ◆お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)
- ◆詳細URL：
<http://www.mot-art-museum.jp/exhibition/oscar-niemeyer.html>

蔡國強「帰去来」展

- ◆会期：2015年7月11日(土)～10月18日(日)
- ◆会場：横浜美術館
神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1
- ◆開館時間：10:00～18:00(入館は17:30まで)
※夜間開館：2015年9月16日(水)、9月18日(金)は20時まで開館(入館は19時30分まで)
- ◆休館日：木曜日
- ◆入場料：当日1,500円(一般)、900円(大学・高校生)、600円(中学生)、無料(小学生以下)、観覧当日に限り「蔡國強展：帰去来」の観覧券で横浜美術館コレクション展も観覧可
- ◆主催：横浜美術館、読売新聞社
- ◆後援：中国大使館、横浜市、一社法)日本福建経済文化促進会
- ◆協賛：華為技術日本株式会社、株式会社資生堂
- 特別協力：日本航空
- ◆協力：ドイツ銀行グループ、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、弁護士法人 BridgeRoots ブリッジルーツ、株式会社キクシマ、東京藝術大学大学院映像研究科 桂英史研究室 | geidaiRAM、横浜美術大学、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社
- ◆お問合せ：045-221-0300(代表)(10時～18時)
- 越後妻有里山現代美術館[キナーレ]特別企画展「蔡國強 蓬莱山—Penglai / Hōrai」：2015年7月26日(日)～9月27日(日)
※大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2015にて開催